

令和 8 年度

千葉大学工学部

3 年次編入学
学生募集要項

令和 7 年 1 月

は じ め に

千葉大学工学部総合工学科は、工学の専門分野に対応した8コース（建築学コース、都市工学コース、デザインコース、機械工学コース、医工学コース、電気電子工学コース、物質科学コース、共生応用化学コース）で構成されています。（令和6年4月に総合工学科情報工学コースは発展的に解消され、情報・データサイエンス学部が設置されたため、工学部は情報工学コースを除いた8コースとなりました。）

編入学では、出身学校において履修した学科と編入学希望コースとが同一系列であることが必ずしも条件ではありませんので、受験に際して進路を変えることも可能です。

なお、**修業年限は2年間です**。編入学生の卒業要件は、2年以上在学し、入学時に認定された普遍教育科目及び専門教育科目の単位を含めて、各コースで定めた卒業に必要な単位を修得することです。卒業生には、学士（工学）の学位が授与されます。

また、本学には、修業年限2年の博士前期課程（修士課程）と修業年限3年の博士後期課程（博士課程）で構成された大学院融合理工学府が設置されており、さらに高度な教育・研究を継続する道が開かれています。博士前期課程の修了者には修士の学位が、博士後期課程の修了者には博士の学位が授与されます。近年、学問の高度化と多様化を反映して多くの学生が大学院へ進学しています。

目 次

工学部入学者受入れの方針	2
I. 募集する学科及び募集人員	3
II. 身体等に障害のある入学志願者の事前相談	3
III. 入学者選抜	4
IV. 入学手続等	11
V. コースの紹介	12
千葉大学案内図、工学系学部学務室問い合わせ先	16

工学部ホームページ <https://www.f-eng.chiba-u.jp/>

工学部入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

【工学部入学者受入れの方針】

・工学部の求める入学者

現代社会では、豊かな暮らしを目指して効率性や利便性を追求するだけでなく、人と環境にやさしい配慮も求められています。工学部では、工学教育の伝統的な専門性を尊重しながらも、その枠を超えて互いの連携・融合を図ることにより、常に、広範な社会的要請に応えられる専門教育システムの確立に努めています。そして、「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想し実践できる工学技術者・研究者の育成を目指します。

私たちは、工学を「豊かな人間社会の構築を目指す実践の学問」と考えています。社会と環境を支える技術者・研究者を育成する工学部では、

1. 「なぜ」を問う好奇心・探究心
2. 「何をなすべきか」を主体的に考える力
3. 「いかにして」を構想し、実践する力を修得することに、興味と資質を有する人材を求めます。

・入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校で履修した科目（大学入学共通テストで課している科目）について十分に理解できていることが必要です。数学を含む理系科目は工学の基礎となる科目なのでとても重要ですが、国語や外国語も将来、国内外の知見を収集し、成果を発信する上で重要です。論理的な思考で組み立てられた論文や報告書、発表や説明ができなければ、自らの考えを他人に伝えられないので、技術者・研究者としての価値がなくなってしまいます。また、「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想し実践する上で、もう一つ重要なこととして、「学ぶ」ことを楽しむ姿勢を身に付けていて欲しいと考えています。

なお、工学部では、工学共通の教育に加えて、専門性を深めていくために、8つのコースのうちのいずれかに所属して学習していきます。それぞれのコースで学ぶに当たっては、特に以下のような能力や姿勢を身に付けておくことが望まれます。

建築学コース：

建築・都市及び社会の動向や芸術文化に関心を持ち、現代の様々な課題に対して意欲的に探究する姿勢。

都市工学コース：

持続的で豊かな都市の創造を目指して、探求心と総合的視野を持ちつつ、都市に関わる様々な課題に積極的に取り組む意欲。

デザインコース：

地球環境、社会、文化など幅広い事象に興味を示し総合して考える姿勢、最先端の科学と技術を理解して、様々な試みを行いながら創造的な提案を実現しようとする意欲。

機械工学コース：

事物や現象から仕組みを物理的及び化学的に洞察して数学的に表現する能力、幅広い分野の知識を統合して物事を総合的に捉える能力、ならびに機械工学への興味。

医工学コース：

電気電子工学、機械工学、情報工学など幅広い関心を有すること。また、医工学は生命や健康と福祉に直接的・間接的に寄与しているという意識。

電気電子工学コース：

電気電子工学の社会的使命に興味を示し、その科学技術の発展に寄与したいと強く希望する姿勢。さらに、そのための専門的な知識・能力を習得する意欲と、それを支える基礎的素養と能力。

物質科学コース：

自然の様々な現象や人類の発明・発見について興味を深め、自ら積極的に物質科学における問題を探究するための基礎となる物理、化学及び数学の総合的な学力。

共生応用化学コース：

化学を中心にした学問領域を学ぶための基礎学力と、将来、化学だけでなく他の分野との境界領域で仕事をするために化学以外の科目にも興味を持って学ぶ姿勢。

I. 募集する学科及び募集人員

1. 募集人員

募 集 学 科 ・ コー ス		募 集 人 員	
		学校推薦枠	自己推薦枠
総 合 工 学 科	建築学コース	52名	
	都市工学コース		
	デザインコース		
	機械工学コース		
	医工学コース		
	電気電子工学コース		
	物質科学コース		
	共生応用化学コース		

※出願時には、いずれかのコースを選択して出願してください。
過去2年間の実績は以下のとおりです。

募集人員 60名 コース名	令和6年度				令和7年度			
	学校推薦枠		自己推薦枠		学校推薦枠		自己推薦枠	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
建築学コース	12	8	5	1	14	8	1	0
都市工学コース	8	6	11	1	4	4	5	1
デザインコース	5	4	13	2	5	4	12	3
機械工学コース	17	10	0	0	10	7	2	0
医工学コース	9	7	7	2	11	8	5	0
電気電子工学コース	18	11	1	0	2	2	6	0
物質科学コース	1	1	2	1	2	2	2	1
共生応用化学コース	3	2	3	0	8	6	3	0
情報工学コース※	13	10	16	2	14	10	12	3
合計	86	59	58	9	70	51	48	8

※令和8年度入学者選抜より、情報・データサイエンス学部で募集します。

2. 日 程

〔出願サイトでの出願情報登録期間〕 令和7年 4月14日（月）～ 4月23日（水）

〔郵送による出願書類受付期間〕 令和7年 4月21日（月）～ 4月23日（水）

〔試 験 日〕 令和7年 5月24日（土）

〔合 格 発 表〕 令和7年 6月24日（火）

II. 身体等に障害のある入学志願者の事前相談

身体等に障害があり、受験上又は修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、次により事前相談の申請を行ってください。

1. 提出書類

- ① 事前相談申請書（用紙は、工学系学部学務室に請求してください。）
- ② 医師の診断書（障害の程度及び必要とする具体的な措置等を記載したもの）

2. 相談内容の検討

提出された書類に基づき、本学関係者で検討を行います。ただし、検討の過程において、志願者本人、保護者又は出身学校関係者へ照会する場合があります。

3. 事前相談の締切日

令和 7 年 3 月 1 7 日（月）

4. 申請書請求先及び書類提出先

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1番33号
千葉大学工学系学部学務室
電話 043-290-3054

Ⅲ. 入学者選抜

1. 出願資格

【学校推薦枠】

次の①又は②のいずれかに該当する者で、最終学年前年次（卒業者は最終学年次）の成績が上位10%程度以内で出身学校長が責任を持って推薦できる者（外国の学校等は、対象となりません。）

- ① 高等専門学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者
- ② 理工系※¹の短期大学又は短期大学の理工系※¹の学科を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者（志望するコースの2年次までに学ぶ専門教育科目と同分野の教育内容を学んでいること）

【自己推薦枠】

次の③～⑥のいずれかに該当する者で、志望するコースの2年次までに学ぶ専門教育科目の学力に優れ、自分自身をアピールすることができる※²者（外国の学校等は、対象となりません。）

- ③ 学士の学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
- ④ 修業年限4年以上の理工系※¹の大学又は学部で2年以上在学し（令和8年3月までに2年以上の在学となる者を含む。）、62単位以上の単位を修得（見込）した者（志望するコースの2年次までに学ぶ専門教育科目と同分野の教育内容を学んでいること）
- ⑤ 高等専門学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者
- ⑥ 理工系※¹の短期大学又は短期大学の理工系※¹の学科を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者（志望するコースの2年次までに学ぶ専門教育科目と同分野の教育内容を学んでいること）

※1 建築学コースを志望する者については、建築士受験資格を得られる課程を含む。デザインコースを志望する者については、住居系及び芸術系を含む。

※2 自分自身をアピールすることができる資料として、出願時に9ページのとおり提出。

（注）各コースの2年次までに学ぶ専門教育科目については、千葉大学工学部履修課程 (<https://www.f-eng.chiba-u.jp/students/index.html>)、各授業の内容については、千葉大学シラバス検索システム (<https://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/syllabus/index.html>) で閲覧することができます。

2. 出願要件

合格した場合に入学を確約できる者。

〔出願に際しての留意事項〕

- ① 既修得単位の認定については、本学部の定めるところにより、当該出身学校のカリキュラム及び修得した科目を考慮して行いますが、既修得単位の内容や入学するコースによっては、認定し得る単位が限定されることがあり、3年次に編入しても2年間で卒業できないことがあります。
- ② 教員免許の資格等については、在学中に取得できない、または、3年以上の在学が必要となる場合があります。
- ③ 本学部の授業は、月曜日から金曜日の8時50分から17時40分を原則としております。

3. 出願手続等

千葉大学工学部3年次編入学の出願は、「インターネット出願」による手続となります。

利用案内や出願方法等の詳細は、千葉大学ホームページに掲載する出願サイト（ガイダンスサイト）を参照してください。

なお、インターネット出願では、出願サイトでの出願情報の登録及び検定料の入金だけでは出願は完了しません。出願書類が所定の出願受付期間内に本学に到着してはじめて出願完了となりますので、あらかじめご注意ください。

インターネット出願の流れ					
					
募集要項を 確認	出願サイトで 出願情報登録	証明写真を アップロード	検定料のお支払い	志願票を印刷	必要書類を 郵送
手順〔1〕	手順〔2〕	手順〔3〕	手順〔4〕	手順〔5〕	

出願サイト
千葉大学ホームページから出願サイト（ガイダンスサイト）にアクセスします。 ガイダンスサイトでは、「利用案内」や「出願方法」のほか、「よくある質問」を掲載していますので、出願を始める前によくお読みください。 https://www.chiba-u.ac.jp/admissions/gakubu/special.html 

出願期間
出願サイトでの出願情報登録期間 令和7年4月14日（月）10時 ～ 4月23日（水）17時 郵送による出願書類受付期間 令和7年4月21日（月） ～ 4月23日（水）【必着】
(注) 1 出願書類は、配達に要する日数を見込み、余裕をもって郵送してください。出願書類受付期間内に到着しない場合は、受理できません。 2 やむを得ず持参する場合は、事前に連絡をした上で、出願受付期間（土日を除く。）の9時から12時、13時から17時の間に、工学系学部学務室へ直接持参してください。

出願方法
(1) 出願の手順〔1〕～〔5〕により行ってください。出願方法全般について不明な点があるときは、工学系学部学務室へ問い合わせてください。

- (注) 1 出願書類に不備があると受理できませんので、間違いのないようよく確認してください。
- 2 受理した出願書類は返却しません。
- 3 志願票等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- 4 出願後、転居等の理由により、出願サイトで登録した現住所・連絡先に変更がある場合は、直ちに工学系学部学務室へ連絡してください。

(1) 出願の手順

〔1〕募集要項の確認、提出書類の準備

募集要項をよく読んで出願資格を確認し、以下に注意して出願書類等を準備してください。

- (注) 1 出願資格に応じた**証明書類（成績証明書等）**の提出が必要です。7～8ページを確認の上、証明書類を準備してください。
- 2 **【学校推薦枠】**で出願する際は、出身学校長が作成した推薦書の提出が必要であるため、出身学校に早めに相談してください。

〔2〕出願情報の登録

千葉大学ホームページから出願サイト（ガイダンスサイト）にアクセスし、必要事項を登録してください。

出願情報の登録の際は、以下の（注）及び出願サイトの「利用案内」や「よくある質問」等をよく読み、誤りがないか十分確認してください。

出願サイトは、千葉大学ホームページからアクセスしてください。

（ <https://www.chiba-u.ac.jp/admissions/gakubu/special.html> ）

※操作に関するお問い合わせは、志願受付操作サポート窓口までお願いします。

志願受付操作サポート窓口

TEL : 0120-752-257 （受付 9 時～20 時）

※お問い合わせの前に「よくある質問」をご確認ください。

- (注) 出願情報の登録完了前に「入力内容の確認画面」で誤りがないかよく確認してください。
入力内容に誤りがある場合には、状況に応じて、以下のとおり対応してください。

■ 出願情報の登録完了前 ▶ 入力画面に戻って誤った内容を修正してください。

- 出願情報の登録完了後 ▶ 検定料の入金状況により、いずれかの対応をしてください。
- 1) 検定料入金前 ▶ 検定料は入金せず、再度はじめてから出願情報の登録を行ってください。誤った内容の出願登録は、そのままにしておいて構いません。
- 2) 検定料入金後 ▶ 出願サイトでは誤った内容を修正できません。速やかに工学系学部学務室へ連絡し、その指示に従ってください。
ただし、「現住所」と「連絡先」の誤りに限り、7ページ「〔5〕志願票の印刷・出願書類の郵送」の(注)2のとおり修正してください。

〔３〕証明写真のアップロード

試験当日における本人照合用の証明写真を、出願サイトにアップロードしてください。

- (注) 1 証明写真データは、直近３ヶ月以内に撮影した、カラー写真（白黒不可）、上半身・正面・無帽、背景なし、枠なしのものに限ります。英文字や数式、地図等がプリントされている服等を着用しているものも不可とします。
- 2 写真データのサイズは１００KB以上５MB以下、データ形式はファイル拡張子が「jpeg」、「jpg」又は「png」のいずれかである必要があります。

〔４〕検定料の支払い

クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済、銀行ATM（Pay-easy）又はネットバンキングで検定料３０，０００円を支払ってください。

上記〔２〕出願情報の登録が完了すると、登録したメールアドレス宛てに出願登録確認メールが届き、支払い方法の詳細をお知らせしますので、よく確認の上、支払ってください。

- (注) 1 検定料のほかに、手数料（インターネット出願システム使用料）７００円が必要です。なお、手数料は志願者負担となります。
- 2 いったん納入した検定料は原則として返還しません。ただし、検定料を誤って振込み出願しなかった者については、検定料の全額（３０，０００円）を返還します。返還手続を希望する旨を工学系学部学務室に連絡してください。
- （返還手続の期限：令和８年３月３１日（火）１７時まで）
- 3 日本国政府国費外国人留学生については、検定料は不要です。なお、支払金額は０円と表示されます。

〔５〕志願票の印刷・出願書類の郵送

次の出願書類１～１１を用意し、「出願用封筒」に同封の上、出願書類受付期間（５ページ参照）に届くように、出願者本人から千葉大学工学系学部学務室に簡易書留・速達郵便で送付してください。

- (注) 1 「出願用封筒」は、出願サイトから「出願用ラベル（宛名入り）」をダウンロードし、A４用紙にカラー印刷したものを、市販の角形２号封筒（２４０mm×３３２mm）に貼って作成してください。
- 2 「志願票」及び「出願用ラベル」の印刷後、記載内容に誤りがないか確認し、誤りがある場合は、速やかに工学系学部学務室に連絡してください。ただし、「現住所」及び「連絡先」に誤りがあった場合に限り、二重線を引き（訂正印は不要）、余白部分に正しい内容を明記の上、送付してください（志願票の※欄には何も記入しないでください）。

○…必須、△…該当者のみ、―…提出不要

出願書類		学校 推薦枠	自己 推薦枠	備考
1	千葉大学志願票	○	○	出願サイトからダウンロードし、A４用紙にカラー印刷してください。
2	卒業（見込）証明書 または在学（期間） 証明書	○	○	４ページの出願資格①、②、③、⑤、⑥のいずれかの志願者は、「卒業（見込）証明書」を提出してください。出願資格④の志願者は、「在学証明書」（入学年月日又は在学年次を明記したもので休学期間があればその期間を明記したもの）又は「在学期間証明書」（休学期間があればその期間を明記したもの）を提出してください。
3	成績証明書	○	○	出身学校所定の様式で提出してください。
4	自己アピール文	○	○	様式は千葉大学工学部ホームページ（ https://www.f-eng.chiba-u.jp/admission/application.html ）からダウンロードしてください。 記入にあたっては、黒のボールペンで自筆、楷書でていねいに記入してください。誤って記入した場合は、二重線で消し、余白に記入してください。また、直接記入せずにパソコンで作

				成し、プリントアウトした原稿を貼り付けても構いません。なお、「※」の欄は記入しないでください。 また、以下のような内容を記入してください。 ・本学工学部に編入を志望する理由 ・入学後の研究等の計画 ・入学を希望するコースの研究テーマに関連した取組み（学内外での研究成果などの発表や取り組んでいるものなど） ・TOEFL や TOEIC など英語に関する外部検定試験の結果等 (任意記入)
5	(該当者のみ) 外国語検定試験の成績証明書等及び返送用封筒	△	△	自己アピール文に TOEFL や TOEIC など英語に関する外部検定試験の結果について記載した場合は、成績証明書等の原本及び成績証明書等を返却するための返送用封筒を提出してください。返送用封筒は市販の「角形 2 号」封筒(240mm×332mm)に、志願者の郵便番号、住所及び氏名を記入の上、180 円分の切手を貼付したものとします。なお、実用英語技能検定（英検）のデジタル証明書は利用できません。
6	履歴書	○	○	様式は千葉大学工学部ホームページ（https://www.f-eng.chiba-u.jp/admission/application.html）からダウンロードしてください。 出願する年月まで空白の期間がないように記入してください。
7	(該当者のみ) 住民票の写し	△	△	外国人志願者のみ提出してください。 市区町村発行のもので、国籍、在留資格及び在留期間が記載されており、個人番号（マイナンバー）が記載されていないこと。
8	(該当者のみ) 日本国政府国費外国人留学生である場合はその証明書類	△	△	日本国政府国費外国人留学生のみ提出してください。 出身学校所定の様式で提出してください。
9	推薦書	○	—	様式は千葉大学工学部ホームページ（https://www.f-eng.chiba-u.jp/admission/application.html）からダウンロードしてください。 出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。（開封されたものは無効とします。）
10	(該当者のみ) 単位修得見込申告書	—	△	4 ページの出願資格④の志願者で 6 2 単位以上の単位を出願時に修得できていない場合のみ提出してください。 様式は千葉大学工学部ホームページ（https://www.f-eng.chiba-u.jp/admission/application.html）からダウンロードしてください。 単位修得見込申告書に記載した履修予定科目名及び単位数が明記された資料（履修案内・科目登録表の写し等）も合わせて提出してください。 ※出身学校で同等の証明書を作成できる場合は、出身学校の様式で提出しても構いません。
11	(該当者のみ) その他提出物等	—	△	【自己推薦枠】の出願者については、出願するコースによってその他提出物等を求めています。次のページの説明をよく読み、必要な書類を提出してください。

※【自己推薦枠】の一部コースにおける自己アピール文及びその他提出物等について

【自己推薦枠】で以下のコースに出願する場合は、自己アピール文の記載内容及びその他提出物等について

て指定があります。以下の内容を必ず確認の上、出願書類を提出してください。

ただし、持参と記載のものについては出願時に提出せず、試験当日に持参してください。

○…必須，△…該当するものがある場合のみ

コ ー ス	提 出 物 等	自己推薦枠
建築学コース	・学外の設計競技（コンペティション）において個人での受賞経験者は、設計競技名と開催年月日及び受賞内容を「自己アピール文」に記載する。なお、選抜にあたっては、学外の設計競技における個人での受賞経験を高く評価する。	△
	・ 面接当日に「自己アピール文」に記載した応募案（写しでも可）及び受賞を証明できるものを持参すること。	△
デザインコース	・卒業研究や自主制作、授業課題、デザインコンペ応募作品などを書面としてまとめた「作品集」（「作品集」は、試験終了後返却）	○
機械工学コース	・千葉大学を志望する動機 A4判で1枚，500字程度	○
	・機械工学コースを志望する動機 A4判で1枚，500字程度	○
	・卒業研究に取りかかっている場合は、卒業研究の概要 A4判で1枚，1000字程度と図を2枚程度	△
	・特筆に値する事項（受賞歴などがあれば提出） A4判で1枚，箇条書きで可	△
	・数学に関する外部試験（EMaT 工学系数学統一試験など）を受けている場合は、その点数の証明書類のコピー	△
医工学コース	・特筆に値する事項（受賞歴、医工学に関する社会的貢献などがあれば提出） A4判で1枚，箇条書きで可	△
電気電子工学コース	・【学校推薦枠】と同等の成績または優れた成績を修めたことを「自己アピール文」に記載。	○
	・「自己アピール文」に記載した成績を修めた旨がわかる書類があれば提出。	△
物質科学コース	・特筆に値する事項（これまでの研究活動、課外活動などがあれば提出） A4判で1枚，箇条書きで可	△
共生応用化学コース	・千葉大学を志望する動機 A4判で1枚，500字程度	○
	・共生応用化学コースを志望する動機 A4判で1枚，500字程度	○
	・【学校推薦枠】と同等の成績または優れた成績を修めたことを「自己アピール文」に記載。	○
	・卒業研究に取りかかっている場合は、卒業研究の概要 A4判で1枚，1000字程度と図を2枚程度	△
	・特筆に値する事項（受賞歴などがあれば提出） A4判で1枚，箇条書きで可	△
	・自己アピール文への記載の有無にかかわらず、英語に関する外部試験（TOEIC, TOEFL など）を受けている場合は、当該試験の成績証明書等の原本及び成績証明書等を返却するための返送用封筒を提出すること。返送用封筒は 市販の「角形 2 号」封筒(240mm×332mm)に、志願者の郵便番号、住所及び氏名を記入の上、180 円分の切手を貼付したものとする。	△

（２）出願書類の受理通知

本学で出願書類を受理した後、不備がなければ、出願サイト（申込確認画面 ▶ 申し込み一覧）にその旨を掲載しますので、確認してください。不備がある場合は、工学系学部学務室から問い合わせがあります。

(3) 受験票の印刷

受験票ダウンロード開始日以降、出願サイトで受験票をダウンロードし、必ずA4用紙にカラー印刷してください。

受験票ダウンロード開始日	令和7年5月16日（金）14時以降（予定）
--------------	-----------------------

(4) 出願の際の留意事項等

- ① 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
- ② 出願後の出願内容の変更はできません。
- ③ 受理した出願書類は、いかなる理由があっても返却しません。
- ④ 志願票等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑤ 本選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

4. 選抜基準

【学校推薦枠】

面接及び口頭試問の結果、推薦書・成績証明書・出願書類等の内容などを総合し、100点満点で判定します。

【自己推薦枠】

面接及び口頭試問の結果、成績証明書・出願書類等の内容などを総合し、100点満点で判定します。

5. 試験日時、実施科目及び配点

(1) 試験日時

令和7年5月24日（土） 10:00～

(2) 実施科目及び配点

学科・コース		学校推薦枠	自己推薦枠	配点
総合工学科	建築学コース	面接及び口頭試問		100
	都市工学コース			
	デザインコース			
	機械工学コース			
	医工学コース			
	電気電子工学コース			
	物質科学コース			
	共生応用化学コース			

- (注) 1 出願時に選択したコースについての面接及び口頭試問を実施します。
2 面接は、志望動機、学習意欲、将来への展望等を尋ね、志望するコースの分野への理解、適性を総合的に評価します。
3 口頭試問は、基礎的な学力をみる内容を尋ね、志望するコースへの適性を総合的に評価します。

6. 試験会場

千葉大学西千葉キャンパス工学部校舎で行います。なお、試験当日は必ず受験票等を持参してください。受験に関する注意事項等の詳細については、令和7年5月16日（金）までに工学部ホームページへ掲載します。また、令和7年5月23日（金）9時に工学部掲示板へ試験室等を掲示します。

7. 合格者発表

合格者受験番号を令和7年6月24日（火）13時頃に千葉大学工学部ホームページ（<https://www.f-eng.chiba-u.jp/>）へ掲載します。（6月26日（木）17時まで掲載）また、合格者に合格通知書等を送付します。※学校推薦枠の出願者については、出身学校宛に別途可否結果を通知します。

なお、合格者には令和7年7月上旬（予定）までに、「入学確約書」を提出していただきます。提出しない者は、本学部に入学的意思がないものとして取り扱います。

IV. 入学手続等

1. 入学手続日時及び方法

本学部では「WEB入学手続システム」を導入しています。合格者の皆様の利便性を図るため、システムを利用いただくことで大学への来校を不要とし、入学料納入もクレジットカード決済やコンビニ支払いとします。「WEB入学手続システム」や「入学手続」の詳細は千葉大学ホームページへ掲載しますが、詳細な手続期間及び手続方法等については、合格者宛に別途案内します。入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので充分注意してください。

- （注）1 入学手続には、「受験票（又は合格通知書）」が必要ですので大切に保管してください。
- 2 入学手続の際、既修得単位認定申請書類（出身学校の卒業証明書、単位数が記載されている成績証明書等）を提出していただきます。
- 3 所定の要件を満たす見込みで出願・受験・合格した者が、入学手続後、令和8年3月末までに所定の要件を満たすことができなかった場合は、入学を取り消します。

2. 入学手続の際に納入する主な経費

入 学 料 282,000円

学生教育研究災害傷害保険料……〔一般学生〕2,430円※（2年分）（学研災付帯賠償責任保険Aコース含む）
〔留学生〕Aタイプ5,010円※、Bタイプ21,880円※
（いずれも2年分）（外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険含む）
※医工学コースの入学者は、上記に加えて接触感染予防保険金支払
特約を含むため、上記の金額に40円加算した金額となります。

- （注）1 入学料の納入については、入学手続き時に納入願います。詳細な納入期間及び納入方法は、合格者に対して改めてお知らせします。
- 2 授業料の納入については、入学年度の前期授業料は5月（2年目以降は4月）に、後期授業料は10月に、それぞれ口座振替により納入願います。口座振替手続等の詳細は、合格者に対して改めてお知らせします。
- なお、前期分・後期分授業料は、それぞれ321,480円（年額642,960円）です。
- 3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
- 4 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- 5 入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は、千葉大学ホームページ（<https://www.chiba-u.ac.jp/students/payment/exemption.html>）をご覧ください。
- 6 学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（留学生は外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険料）は、令和8年3月31日（火）までに払い込んでください。納入方法は合格者に対して改めてお知らせします。

※当該保険について

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償、留学生にあっては救済者費用、ケガ・病気の補償（Bタイプのみ）も含まれます。なお、保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。

詳細は、千葉大学ホームページ（https://www.chiba-u.ac.jp/for_school-life/support.html）をご確認ください。

V. コースの紹介

■建築学コース

＜芸術と技術の融合した建築物をつくる＞

人間の暮らしに不可欠な衣・食・住のうち、建築は、人間の住まいを創造する仕事です。豊か・美しい・快い・安心できるなど、社会に対する人々のニーズは様々ですが、建築にはこれらのニーズを満たす具体性が求められます。社会基盤を構成する建築分野は、いつの時代においても不可欠であり、創造と進歩が常に求められる分野です。

建築学コースのカリキュラムでは、歴史・設計・環境・設備・構造・生産など、建築が総合的な学問であるために、多岐にわたります。将来、建築家を目指す人、設備や構造の技術者を目指す人など、様々な選択ができますが、建築を多面的に捉えられるように、また自分自身の適性を探れるように、3年次までは幅広い領域を学べるよう構成されています。個性と創造力が重視される建築設計カリキュラムでは、少人数制の演習を実践し、個々にきめ細かな指導を行っています。建築設計の授業では、建築作品を各自設計し、最後にそれを教員・学生の講評会で発表します。構造の授業では講義で知識を学ぶだけでなく、実際に構造物を製作し、その強さを予測した上で、実際に力を加え変形を調べるなど、構造物の強さを体感するプログラムになっています。

4年次になると研究室に配属され、各専門領域に特化した研究を行うことになります。本コースでは、大学院をも含めた6年一貫プログラム編成を指向し、さらに高度な学習・研究を行うための環境を整備しています。また、欧州5大学と交換留学を行うなど、国際交流にも力を入れています。

建築学コースは、高等教育機関の技術者教育プログラムを評価・認定する機関であるJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けています。これにより、本コースの卒業生は、技術士の一次試験が免除されます。また、所定の科目を履修することで、一級建築士試験の受験資格が得られ、多くの卒業生が取得しています。

1921年に設立された工芸図案科・木材工芸科を前身とする建築学コースには百年の伝統があります。総合建設業・住宅産業・建材製造業・設計事務所・諸官庁・教育研究機関ほか、様々な分野において、数多くの卒業生が活躍しています。

建築学コースホームページ <https://archi.gs.chiba-u.jp/>

■都市工学コース

＜魅力ある都市を創る技術を拓く＋究める＞

豊かで快適な都市生活を実現するためには、安全・安心な社会の実現に貢献する都市基盤とこれまでの都市が抱えてきた課題を解決するための魅力ある都市計画の融合が不可欠です。そのためには、災害に強い都市をつくるための防災技術、人口減少型社会に対応したコミュニティ形成など、都市に関する様々な技術課題を多角的・総合的に捉える視野も大切です。都市工学コースは、持続的で豊かな都市の創造を目指して、探究心と総合的視野を持ちつつ、多様化する都市の課題に積極的に取り組む意欲のある人を求めています。

都市工学コースの教育カリキュラムは、都市生活の基盤となるハード対策、人と人とのコミュニティなどのソフト対策に関する工学的技術を幅広く学び、確かな専門性を身に付けることができるように、1)現場での体験型演習や実験、2)実社会との連携、3)少人数による実践的トレーニング、4)常に新鮮で実践に生きる知識、5)国際交流の5つを重視して構成されています。当コースは、都市空間計画（ソフト系）、都市基盤工学（ハード系）の2つの領域から構成され、都市計画、住環境計画、交通計画、都市デザイン、都市情報、都市施設構造、都市防災、建設材料、水循環システム、都市エネルギー、リモートセンシングなどのテーマについて、2つの領域が密接に連携しながら教育と研究を進めています。

卒業後は、都市工学に関わる国および地方自治体の技術職、民間企業（建設、鉄道、インフラ企業など）、コンサルタント（設計・調査、経営など）、シンクタンク、公共企業、教育研究機関、NPO（非営利組織）など幅広い分野で活躍しています。さらに、専門性を究め、知識と実践力の研鑽を目指して大学院（博士前期課程、博士後期課程）への進学の日もひらかれています。

都市工学コースホームページ <https://dou.tu.chiba-u.ac.jp/>

■デザインコース

＜感性と知性とを備えたデザイナーの養成＞

私たちの日常生活やその環境に存在する問題点を解決し、より快適で美しいものを創造するデザインは、今、あらゆる領域で重要視されています。そのため、生活文化と深く関わり多様なニーズに柔軟に対応すると同時に、技術や科学に裏打ちされた芸術性・人間性豊かなデザインを実現できる能力を有し、デザイン界をリードして国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。

入学された皆さんは、まず、教養教育としての普遍教育科目群、工学教育の基礎としての専門基礎科目群

により一般基礎教育を学習します。また同時に、専門教育の基礎となる講義や演習によって、デザインに求められる知識や技術を身につけます。専門教育においては、2年次から3年次までの2年間にわたって用意された5つの演習科目群[工業デザイン、トランスポーテーションデザイン、コミュニケーションデザイン、環境デザイン、デザイン科学演習]を通して、基礎から応用までの一貫した教育を体系的に学ぶことができます。また、海外協定校の学生とのデザインワークショップ等、国際経験を積む機会も準備されています。以上の学習を終えた後、4年間の集大成として卒業研究、あるいは、デザイン総合プロジェクトに取り組みます。

2021年、千葉大学のデザインコースは創立100周年を迎えました。これを機に、本学では、ますます多様化・高度化する社会の課題に次世代のイノベーション創出によって応えるべく「デザイン・リサーチ・インスティテュート(dri)」を立ち上げました。同コースの教育カリキュラムにおいては、dri所属教員が中心となって、理論・技術の教授のみならず、墨田サテライトキャンパスを活用しながら、多数のデザイン実践を行います。

具体的には、1年次は基本西千葉キャンパスのみでの学習となりますが、2・3年次は週1～2回程度、墨田サテライトキャンパスで、演習授業を中心に参加します。4年次は研究室により、卒業研究のテーマによりますが、墨田サテライトキャンパス周辺をフィールドとして研究活動に従事する場合があります。

さらに、学部を卒業した約半数の人達は大学院に進学し、博士前期課程までの6年間、さらには博士後期課程までの9年間、一貫したより高度な勉学に励んでいます。

本コースの卒業生は、自動車、精密機械、家電製品、家具などの製造業、情報産業や地域開発等において、企画・設計・開発などの業務を行うデザイナーとして、また、全国デザイン系大学の教員や試験研究機関におけるデザイン研究者として、第一線でめざましい活躍をしています。

デザインコースホームページ <https://www.f-eng.chiba-u.jp/education/design.html>

■機械工学コース

＜身の回りから最先端までのあらゆる機械の設計＞

全ての工業製品は機械工学によって製作されています。身の回りの日常製品から遠い宇宙空間の製品まで、大型機械から原子サイズの構造物まで、輸送機械、情報機器、医療機械など全てが機械工学による製品です。物理・化学・生物学的な現象を工学に応用し、新しい学問分野を開拓することも機械工学の重要な使命です。工学の最先端を担っているのは機械工学なのです。

機械工学コースは大きく4つの領域に分けられます。材料・強度・変形教育研究領域、加工・要素教育研究領域、システム・制御・生体工学教育研究領域、環境・熱流体エネルギー教育研究領域です。

材料・強度・変形教育研究領域では、機械に使用する新しい材料の創製・開発や材料特性を評価するための教育と研究を行っています。材料を機械に使用するためには、製品形状に加工しなければなりません。

加工・要素教育研究領域では、新しい加工技術の開発研究や、機械を構成するいわゆる機械要素に関する教育と研究を行っています。

システム・制御・生体工学教育研究領域では、ロボットや車両、飛行体、医療機器などの機械システムの知能化・自律化を実現することや、生物の最適運動や生命・生体機能におけるメカニズムの工学的応用を目的とする教育と研究を行っています。

環境・熱流体エネルギー教育研究領域では、エネルギーの供給・利用・変換に関わる熱・流体工学の教育と研究を行っています。

このように、機械工学は広い領域を網羅しています。受験生の皆さんが取り組みたい学問領域は必ず、機械工学コースで取り扱う教育研究領域に含まれるはずです。

本コースは「プロ」の技術者、研究者を育成することを目的としています。そのためには、数学、物理学などの基礎科目を十分に修得したうえで専門科目を学ぶことになります。そこで、基礎的な科目は1、2年次で集中的に学ぶように配慮し、2年次から徐々に専門科目を勉強します。4年次になると各研究室に配属されて前述のいずれかの教育研究領域において、これまでの学習の集大成として卒業研究を行います。

本コースの卒業生は、機械技術者として様々な企業や組織の第一線で活躍しています。近年、本コース卒業生の過半数は、高度な知識と自ら問題解決する能力を養うために、本学あるいは他大学の大学院(博士前期課程)に進学しています。さらに最先端な研究を行う教員のもとで、より一層学究を極めるために、博士後期課程に進学する道も用意されています。

機械工学コースホームページ <https://www.em.eng.chiba-u.jp/~mech/>

■医工学コース

＜健康・医療・福祉に寄与するエンジニアの養成＞

少子高齢化社会を迎えた我が国では、医療・福祉・健康に関する正確な知識と高い実践力を有する工学技術者が求められています。医工学コースでは、このような社会的要請に応える人材を少人数教育環境によっ

て育成しています。

数学や物理などの基礎科目を低学年で修得した後、高学年になるにつれて情報・電気電子・機械工学の技術体系を母体とする医工学分野の専門科目を学んでいきます。また、4年次では研究室に配属され、教員と話し合っただけのテーマに沿って卒業研究に取り組みます。研究テーマの例としては、CTやMRI、超音波、PET、内視鏡などの各種診断装置によって得られる医用画像や生体信号の処理方法や計測手法の開発、低侵襲かつ安全性を高めた手術技術や支援機器の開発、高齢者や障害者の生活を保護・介護する機器の開発、医療機器の科学的安全性の評価などが挙げられます。卒業研究では学生自身の主体的な取り組みが重視され、問題発見能力、課題解決能力、論理的思考力やコミュニケーション能力が育まれます。

医工学は工学・医学の諸領域はもちろんのこと、理学、薬学・看護学等の幅広い分野が関与する学際的な学問です。そのため、本コースの教育プログラムは、工学部他コースはもとより、フロンティア医工学センター、医学部、看護学部、薬学部、理学部、文学部など、学内の様々な教育研究組織とも連携して実施されています。また、医工学コースには医学部附属病院の医師である教員も所属しており、医療現場を身近に感じながら実践的な教育を受けることができます。このように工学と医学とが日常的に深く関わり合った教育環境は、国内でも希有と言えるでしょう。

例年、本コースでは卒業生の約7割が大学院に進学しています。そのほとんどは本コースに併設された基幹工学専攻医工学コースに進学しており、学部から大学院まで一貫したカリキュラムによる教育が可能になっています。また、本コースの卒業生は、医療・福祉系はもちろんのこと、電気電子、情報、通信、機械、サービス業、官公庁等の幅広い業種に就職し、第一線で活躍しています。

医工学コースホームページ <https://www.tms.chiba-u.jp/>

■電気電子工学コース

＜電気電子工学の基礎学問から先端的应用分野まで＞

電気電子工学は20世紀後半から急速な発展を遂げ、電気機器、情報通信、電気・ガス、精密機械、運輸、輸送機器、化学プラント、医療機器、公共システムなど、あらゆる工学分野に深く浸透した最重要基盤技術として社会を支えています。現代社会は電気電子工学の体系に基づいた技術によって支えられていると言っても過言ではありません。本コースでは、このような実社会において活躍するための電気電子工学に関する基礎学問の素養を身に付けるとともに、他の分野や工学以外の異なるバックグラウンドの人材と協調して新しい技術を創造できる学際的な素養を持った人材の養成を目指しています。

本コースでは、基礎的学問である電磁気学、回路理論を出発点として、高度情報化社会の根幹を担う情報通信の分野から、文明社会を支えるエネルギー変換とその利用技術、および様々な半導体集積回路や材料、最新の電子工学の進展に裏付けられたコンピューターハードウェアやロボット制御に至る分野まで、基礎から応用までの広範な分野の教育・研究を総合的に実践していきます。社会の要請なども考慮して、電気電子工学の専門教育を展開していくとともに、他分野にも向かっていける本当の学際性を涵養し、旧来の電気電子工学の枠にとらわれない視野の広い学生の育成を目標としています。

本コースの研究組織は、電気システム工学、電子システム工学、情報通信工学の研究領域から構成され、世界トップレベルの研究教育拠点形成を目指して活発に活動しています。

なお、4年次に進級すると研究課題を選択して研究分野に所属し、教育に加え研究の第一線で活躍する教員のもとで知的興味を喚起される卒業研究を行います。

本コースの卒業生は、現代産業に必要な基盤を担っており、あらゆる産業領域の企業や組織の第一線で活躍しています。さらに、最近では卒業生の80%近くが、高度な知識と自ら問題解決する能力を養うために、本学、あるいは他大学の大学院に進学し、修了後は産業界ばかりだけでなく公的研究機関などの広い分野で活躍しています。さらにはより一層学究を極めるために博士後期課程に進学する道も用意されており、多くの先輩が第一線の研究者や技術者として活躍しています。

電気電子工学コースホームページ <https://www.te.chiba-u.jp/>

■物質科学コース

＜物理学/化学の枠組みを超えて、物質の本質に迫り、その機能を応用する＞

工学の数多くのイノベーションの成果は、物質・材料を介して目に見える形へと実現されていきます。近年の科学技術の進歩により、原子や分子、その集合体をより精密に操作することが可能になりつつあります。これによって、さまざまな新しい現象が見つかり、新しい形での応用ができるようになってきました。これは広くナノテクノロジーと呼ばれていますが、物理学や化学を包含し、現在も大きく発展し続けている境界的な科学・工学領域です。そして、たとえば新しい電子デバイスや画像デバイスが、このような技術に基づいて生まれてくることが期待されています。物質科学コースは、物理学及び化学を基礎としつつ、その枠組みを超えて、さまざまな物質の性質・機能を探り、またそれを工学的に応用・活用することを目指しています。物質についての理解は現代の科学の根幹をなすものであり、高度情報化社会の基盤を支える物質についての科学を、深く掘り下げると同時に幅広い目で全体を俯瞰し、また応用展開できる人材を育成する—これ

が本コースの目標です。

物質科学で学ぶべき対象は極めて広範囲にわたるため、物理学的な側面からの教育プログラムと、化学的側面からの教育プログラムがあり、学生はいずれかを選択します。これらのプログラムは独立なものではなく、共通して学ぶ部分も多く、相互に連携したものです。どちらも、物質科学の理解を通して広く自然科学や工学技術一般についても深い理解を得られるように構成されています。これらによって、分野の壁をこえた科学的方法論（思考法、探求法）と、それらの工学的応用価値や社会的意義を深く理解し、実践できる技術者、研究者を育てます。特に、4年次で行われる1年間の卒業研究では、コース教員の研究室で研究チームの一員として最先端の研究を行います。

本コースは、その主な母体となった画像科学科とナノサイエンス学科の教育及び研究を発展的に統合・継承しています。両学科とも、他大学にはないユニークな視点と教育内容をもった学科であり、社会や産業界で高く評価されている人材を輩出してきました。物質科学コースの卒業生にも高い社会的期待が寄せられています。本コースを修めた学生に想定される就職先としては、電気、印刷・写真、通信、情報、半導体、エネルギー等に関わる会社や技術系の公務員が挙げられます。また、本コースで所定の科目を履修すると、中学校及び高等学校の理科教諭免許を取得することができます。

物質科学コースホームページ <http://www.tp.chiba-u.jp/ms/>

■共生応用化学コース

＜バイオと環境をキーワードとする新しい応用化学＞

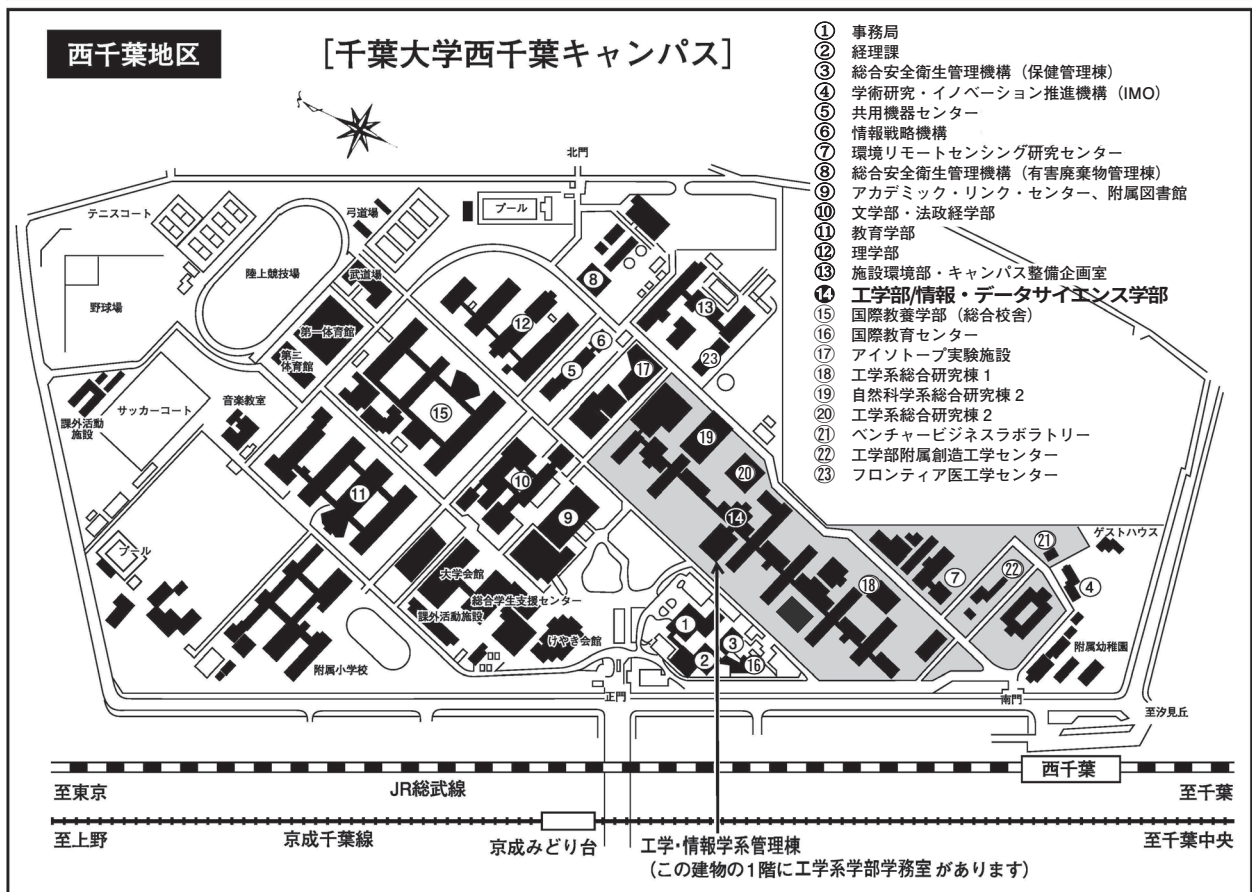
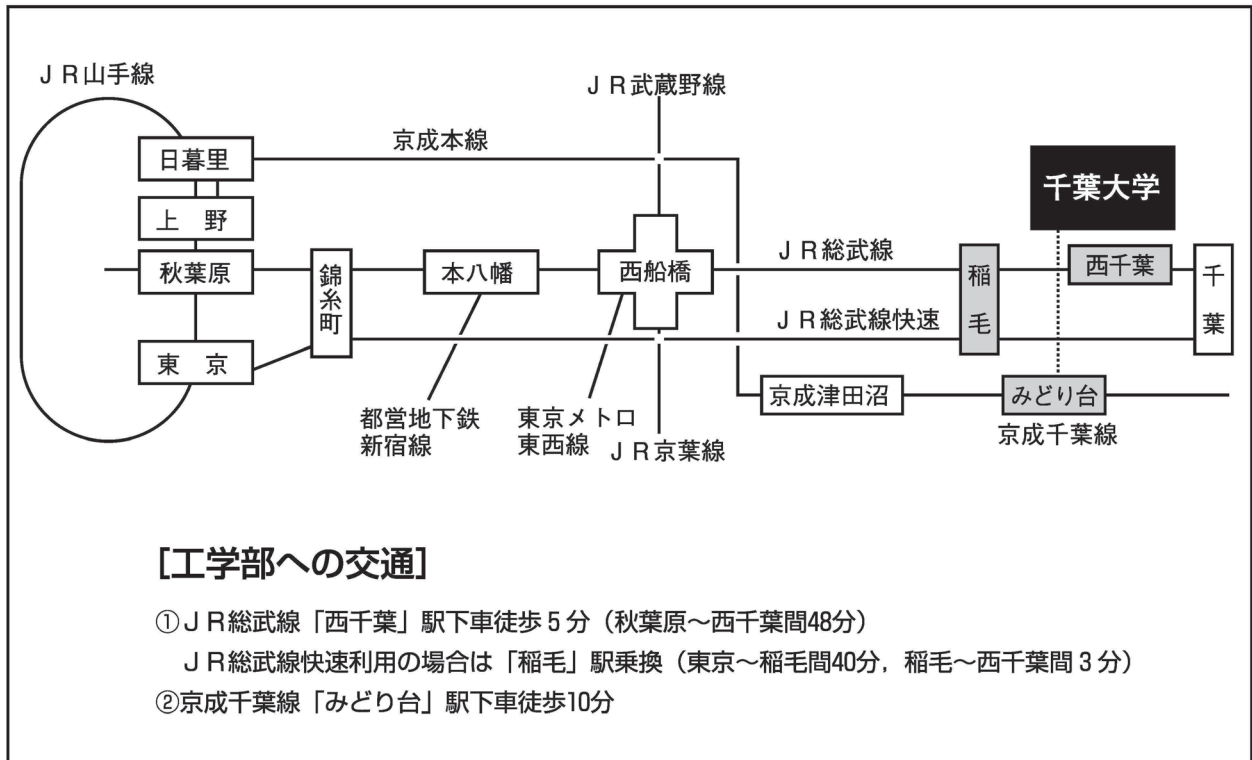
現代の「応用化学」は単に科学技術を発達させるだけでなく、環境を保全しつつ地球資源を有効に活用して人類の真の福祉に貢献することが求められています。そのためには、環境に調和する化学プロセスの開発や、環境に適合した新物質の創製が不可欠です。例えば、生物が有する外部刺激応答性などの機能を化学の立場から理解し、それらの機能を超越するプロセスや物質を実現することです。このような技術開発こそが人類が環境と調和し、他の生命と共生していくことを目指すものであり「新しい応用化学」になります。このような観点に立脚し、本コースは新しい化学及び化学プロセスの開発を担う人材の養成を目的にしています。

共生応用化学コースでは、化学はもちろんのこと、専門分野の基礎となる数学・物理学・生物学などの素養を1年半の共通基礎の教育により涵養し、その後の専門教育では化学及び化学に関連する工学を幅広く修得できるようになっています。新しい機能や高度な性能を持つ物質を多角的な視点から開発することを学ぶ応用化学科目群、生体機能を代替あるいは模倣する人工材料の設計や構築に関して学ぶ生体関連科目群、環境適合性プロセスや材料について学ぶ環境調和科目群など多様な授業科目が履修でき、個性と自主性を重視したカリキュラムとなっています。

3年次後半から配属される研究室には「バイオ機能化学領域」にバイオプロセス化学、バイオマテリアル、ソフト材料化学、高分子化学、「環境調和分子化学領域」に精密有機化学、環境調和有機合成、分子集合体化学、分子構造解析化学、「無機・計測化学領域」にセラミックス化学、極限環境材料化学、計測化学、環境化学、環境マネジメント工学、「資源プロセス化学領域」に触媒化学、表面電気化学、資源反応工学等の研究室があります。セミナーや卒業研究を通じて先端的な研究を行い、基礎と専門の学力及び広い視野を身に付けます。本コースの卒業生は、化学、材料、電子、機械、情報、医薬、エネルギーなど、幅広い産業界での活躍が期待されています。また、より高度な教育・研究を行う大学院（博士前期課程、博士後期課程）が用意されています。

共生応用化学コースホームページ <https://chem.tf.chiba-u.jp/>

千葉大学案内図



千葉大学工学系学部学務室

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

電話：043(290)3054 mail: mak3054@office.chiba-u.jp

問い合わせは月曜日から金曜日（祝日等を除きます）の9時から12時及び13時から17時まで